日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert（傷害速報）

No. 79　医薬品の誤飲

事　例		年齢：1歳8か月　性別：女児　体重：11.0 kg　身長：84.0 cm
傷害の種類		薬物誤飲
原因対象物		医薬品；降圧薬（アムロジピンベシル酸塩錠5 mg）
臨床診断名		急性薬物中毒
医療費		入院費　288,140円，外来費　24,180円
発生状況	発生場所	自宅の居間
	周囲の人・状況	本児は母と入浴後，先に服を着せられ脱衣所を出ており，母は脱衣所で服を着ていた．アムロジピンベシル酸塩錠5 mg（父の常用薬）のPTP包装シートは，薬袋から出された状態で居間の棚に保管されていた．棚の扉は床に立った本児の手が届かない高さにあった．父は仕事で外出しており，姉（12歳）は居間で読書をしていた．
	発生年月・時刻	2017年10月X日（土）　午後10時頃
	発生時の詳しい様子と経緯	午後10時頃，本児は母と入浴後，先に脱衣所を出た．母は脱衣所で服を着ている数分間，本児から目を離していた．午後10時5分頃，先に居間へ行っていた本児が，口の中に手を入れながら脱衣所の母のところへ歩いて来た．母が見ると，本児の口周囲に黄色の粉末が付着していた．母がタオルで児の口腔内をぬぐい，PTP包装シートのアルミ部分の断片を取り出した．その後，母が居間を確認したところ，棚の下に子供用の椅子が置かれ，テーブルの上に6錠分のPTP包装シートが出ていた．そのうち2錠分の中身がなく，シートには噛んだ跡が認められた．シートの他の部分の破損はなかった．姉は同時刻に居間のソファで読書をしていたが，誤飲の瞬間は見ていなかった．午後10時30分頃，かかりつけの医療機関を受診した際には特に症状は認められなかったが，胃内吸引で胃液と黄色の顆粒物が吸引された．同院で胃洗浄後，全身管理目的で別の医療機関に転院した．
治療経過と予後		翌日午前0時20分，病着時のバイタルサインは体温36.9℃，心拍数97回/分，呼吸数24回/分，血圧103/67 mmHg，SpO_2　96％（室内気）であった．循環不全徴候は認められなかった．救急外来で施行された血液検査，静脈血液ガスでは異常値を認めなかった．救急外来で活性炭の胃内単回投与を行い，経過観察目的にICUに入室した．入室後，1時間毎に非観血的血圧測定を継続し，低血圧や徐脈，心電図異常などは認めなかった．入院2日目に一般病棟へ転棟し，全身状態良好であったため入院3日目に退院した．退院1週間後に再診し，全身状態は良好であったため終診とした．

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 日本中毒センターの年報受信報告（2017年）によると受信件数32,768件のうち，医薬品は10,356件（31.6%），5歳以下は24,833件（75.8%）であった[1]．厚生労働省により公表された「2017年度家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告」[2]によると，原因と推定された製品・物質の1位はたばこ（23.0%），2位は医薬品（14.4%）である．医薬品等の誤飲は，たばこに比べて年齢層はより広く，1歳から3歳未満の乳幼児にかけて多く見られた．医薬品等の誤飲事故は，医薬品等がテーブル・棚の上に放置されていた場合以外にも母親が使用しているカバン等を開けて誤飲する例もあった[2]．
2. 小児の医薬品誤飲のほとんどは軽症であると言われるが，誤飲により重篤な症状を呈する医薬品がある．成人用のわずか1錠の誤飲量であっても小児にとっては致死的になることがあるため，一般的に「one pill can kill a child」という概念として知られている．具体的には，血糖降下剤，三環系抗うつ薬，オピオイド系薬剤の他，本事例のようなカルシウム拮抗薬・β遮断薬などの降圧剤もその薬剤に該当し，実際に国内での死亡例の報告もある[3]．
3. No. 67 Injury Alert（傷害速報）[4]のコメントでも言及されているように，医薬品誤飲予防策として，小児が開封しにくい構造のチャイルドレジスタンス（Child Resistance：CR）容器を用いることが望まれる．特に乳幼児と同居する成人患者への処方薬についてはCR容器によって管理される対策が望まれる．

【参考文献】
1）公益財団法人日本中毒情報センター．2017年受信報告．（2019年1月29日最終アクセス）．http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf
2）厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課化学物質安全対策室．“2017年度家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告”．厚生労働省．（2019年1月29日最終アクセス）https://www.mhlw.go.jp/content/11124000/000451980.pdf
3）Yamamoto H, Takayasu T, Nosaka M, et. al. Fatal acute intoxication of accidentally ingested nifedipine in an infant—A case report. Leg Med（Tokyo）. 2017 Jan; 24: 12-18.
4）日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会. No. 67 医薬品の誤飲による意識障害，けいれん．Injury Alert（傷害速報）（2019年1月29日最終アクセス）https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/injuryalert/0067.pdf

---

［投稿のお願い］ 重症度が高い傷害を繰り返さないために，傷害の発生状況をできる限り正確に記載して投稿してください．コメントや考察の必要はありません．

投稿様式は学会のホームページ（http://www.jpeds.or.jp）の会員専用ページからダウンロードして，こどもの生活環境改善委員会に郵送，または専用E-mailアドレス（injury@joy.ocn.ne.jp）にお送りください．

投稿先：〒112-0004　東京都文京区後楽1丁目1番地5号　水道橋外堀通ビル4F
日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会「傷害速報」係

傷害速報（Injury Alert）類似事例の記載について

こどもの生活環境改善委員会では，今までに77編の傷害速報（Injury Alert）を学会誌と日本小児科学会ホームページに掲載し，同じ傷害を繰り返さないために傷害予防を呼びかけて参りました．しかし，同じような傷害の発生が後を絶たず，学会誌に掲載された傷害と同じ例を経験したなどのコメントが多くあります．

同じ傷害が起こっているという事実は「傷害予防」のためには重要な情報です．同じ傷害が頻発している事実を公的に発表するため，ホームページ上にて「類似事例」を掲載することにいたしました．

つきましては，掲載された傷害速報の事例と同じような例を経験された際は，類似事例としてご投稿ください．

【投稿方法】

傷害発生日時，児の年齢，性，簡単な傷害の経緯等を簡潔な文章（2〜3行），もしくは類似事例用投稿フォームにまとめて下記のE-mailアドレス宛てに直接お送りください．また，ご連絡先もご明記ください．

事例は日本小児科学会の一般向けホームページに掲載されます．（学会誌には掲載されません）

〒112-0004　東京都文京区後楽1丁目1番地5号　水道橋外堀通ビル4F
日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会「傷害速報」係
専用E-mailアドレス：injury@joy.ocn.ne.jp